

■川上俊彦 外交官。満洲を含めた極東ロシアにおける日本の權益をつくり、守ることを生涯の役割とした。  
かわかみとしつね  
生麦事件・・・1862＝ (対岸が極東ロシアの)越後国村上で、村上藩士川上泉太郎の長男に生まれる。幼名は銀太郎。

明治維新・・・1868＝ 6歳：  
幼時から俊才で知られ、

廃藩置県・・・1871＝ 9歳：

明治6年政変 1873＝11歳：

・・・1880＝18歳：  
明治14年政変1881＝19歳：新潟師範学校を中退し、東京外国語学校ロシア語学科に入学、

秩父事件・・・1884＝22歳：卒業。

帝国大学始・・・1886＝24歳：釜山領事館の書記生(いわゆるキャリア官僚ではない判任官)として外務省に採用され、

帝国憲法発布1889＝27歳：

大津事件・・・1891＝29歳：ロシアがシベリア鉄道に着工、日本の対露警戒感が強くなって行くなか、

日清戦争始・・・1894＝32歳：  
ウラジオストック、サンクトペテルブルグの書記生を務め、

白馬会・・・1896＝34歳：優れた能力を買われて、\*判任官からは異例の高等官に昇格し、通訳官となる。

子規句歌革新1898＝36歳：  
やがて、温厚な紳士で社交性のある外交官として、多くの人から慕われるようになる。

ピアノ国産化・・・1900＝38歳：入省同時期で高等官採用の加藤高明は早くも外相。自由港ウラジオストックの貿易事務官になると、

田中正造直訴1901＝39歳：一部を除いて開通したシベリア鉄道やその支線の南満洲鉄道沿線の状況を知るべく、

教科書疑獄・・・1902＝40歳：困難を乗り越えて、極東地域(東シベリア一帯と北満洲)の調査旅行、

日露戦争始・・・1904＝42歳：\*調査報告書「西伯利亚及満洲」が出版されるなど、外務省随一の極東ロシア通となって行く。日露開戦になると、

日露戦争終・・・1905＝43歳：旅順要塞攻略の結果、乃木希典とアナトーリイ・ステッセリの両司令官の有名な水師營での会見で通訳を務めた。戦後の通商条約改定作業では、安達峰一郎と共同し、満洲国境の相互無関税貿易をめざすも、ロシアの極東政策の転換で断念。

満鉄発足・・・1906＝44歳：再びウラジオストックの貿易事務官を務めた後、

韓国反日暴動1907＝45歳：日露通商航海条約が成立。ハルビン総領事になると、北満洲から、シベリア、モンゴルまで調査、

アヲヲ創刊・・・1908＝46歳：調査報告書「北満洲之産業」も公刊、

伊藤博文暗殺1909＝47歳：ウラジオストックの自由港制度も廃止。ハルビン駅で伊藤博文が暗殺された際の随員で、流れ弾で負傷。

韓国併合・・・1910＝48歳：前年のアメリカによる満洲鉄道中立化案には日露一緒に反対し、第二次日露協約を結ぶ。さらに、外務省の調査資料「極東露領と北満洲」としてまとめ、農業が勃興していることなどを指摘。

大逆事件判決1911＝49歳：外務本省に、ハルビンを中心とし極東ロシアまで含む経済振興の意見書を提出するも、アメリカの進出を阻止すべく対露協調策をとろうとする本省に採用されなかったが、

明治天皇没・・・1912＝50歳：新橋でパリ行き切符が買える時代が到来するなか、

大正政変・・・1913＝51歳：南満洲鉄道の外務省ポスト初の理事に転じて、再び、北進論を進めようと思気込み、

第一次大戦始1914＝52歳：第一次大戦の勃発で、ロシアからの注文が殺到するも、

民本主義・・・1916＝54歳：

ロシア革命・・・1917＝55歳：シベリアからモスクワまで調査旅行に出ている最中に、ロシア革命となって頓挫するが、ソビエトによるロシア統一と対独単独講和の予言は的中。

大暴落・・・1920＝58歳：大戦終了とともに、ソビエトとドイツの間の最重要国となったポーランド駐在の初代公使に抜擢され、通商航海条約を締結。

原敬首相暗殺1921＝59歳：

関東大震災・・・1923＝61歳：帰国。日ソ国交樹立に向けて、東京市長後藤新平がソ連駐華全権公使アドリフ・ヨッフエを招聘した会談の非公式予備交渉を行い、引き続き外務省の実務ベースに繋ぐ役割を果たし、

治安維持法・・・1925＝63歳：\*日ソ基本条約の締結に至る。これを契機に、北樺太利権交渉団の顧問となり、

円本時代始・・・1926＝64歳：三菱など財閥出資の北樺太鉱業株式会社社長、

世界恐慌・・・1929＝67歳：露領漁業関係者合同の日魯漁業株式会社社長に就任、まさに、極東ロシア利権を代表するに至ったが、

満洲事変・・・1931＝69歳：

帝人疑獄事件1934＝72歳：

芥川直木賞始1935＝73歳：鎌倉の別邸で、没した。

北野剛「満蒙をめぐる人びと」、